

■ 北海道情報大学学内報



NANAKAMADO



(第14回蒼天祭)

● 目 次 ●

新春を迎えて 学長 久野光朗 ……2

就職コーナー ……5

本についての本 図書館長 井野 智 ……3

蒼天祭特集 ……6~7

私の読書観 Vol.2  
情報メディア学部助教授 田城 徹雄 ……4

主要行事・編集後記 ……8

発行・北海道情報大学  
〒069-8585 江別市西野幌59-2 TEL011-385-4411 FAX011-384-0134



## 新春を迎えて

学 長 久 野 光 朗

教員・職員・学生のみなさん、明けましておめでとうございます。年頭にあたり、まずこの1年が経済の活性化とともに平和な1年になることを祈願いたします。平成元年に創立された本学は、数え年であるといふと、15歳になりました。孔子の『論語』によれば、「志学」の年を迎えたわけです。以下、昨年からの懸案事項を5つにわけて整理してみました。みんなで確認しておきましょう。

昨年の4月、はからずも学長になった小生が最初に行ったことは、4月23日付で教職員・学生諸君宛に「学長からのお願い」という文書で、「北海道情報大学への提言——自分が貢献できること——」というテーマに基づき、ひろく建設的提言をいただいたことでもあります。その趣旨は今後の大学改革へ役立てていくためでありましたが、幸い学生2人(学部通学生1人・大学院生1人)と教員32人から真摯な意見を伺うことができました。それらは小生にとって貴重な宝物であり、今後とも大切に保存させてもらうつもりです。

提言の内容は、小生なりに分類してみたところ、30項目に達しました。最も多かった提言は教育・講義内容に関するものでした。なかでも「カリキュラムの改善」というのが圧倒的に多く、ついで「各種施設(環境)の充実」・「学生の資格取得支援」・「学内のIT化(LANを含む)」・「研究の充実」・・・となっていました。なお、これらの提言事項に関する紹介と小生の見解については、昨年の9月30日に開催された第2回学内フォーラムの折に発表させてもらう機会が与えられました。ここに改めてお礼を申し述べさせていただきます。

第二に、昨年5月31日の第2回全学教授会において、経営情報学部改革推進委員会を発足させ、長井学部長を委員長とする9人の構成メンバーによる本委員会9回・打ち合わせ会3回の審議を経て、9月6日付で『答申書』を得、早速、その趣旨に従って文部科学省との間で学科名称変更の交渉に入りました。その結果、周知のとおり、本年4月から経営学科を「経営ネットワーク学科」に、また情報学科を「システム情報学科」に変更して新しい時代の社会的要請に応えることになりました。これは、たんなる形式的な名称変更ではなく、「e-ビジネス総論」・「Web

アプリケーション開発」・「Web技術演習」・「知能システム演習」・・・といった新しいカリキュラムを包摂するのにふさわしい実質的な学科名称の変更であります。いってみれば、「新しい酒は新しい革袋に」ということになりましょう。

第三に、『自己点検・評価報告』(平成13年度)の作成に関して、従来の定型的なものほかに、『教育・研究活動一覧』ならびに『学生満足度調査』を別冊にして作成するべく、それぞれ宇都宮学部長・中村教授・坂上学生部長を責任者とする小委員会をつくり、この3月末までに完成をみるよう作業をすすめています。とくに後者の2つは本学では最初の本格的な試みであり、開かれた大学の社会に対する説明責任の一端を果たすうえで画期的な事柄であります。ちなみに、この際、平成16年度以降、これまでの「自己点検・評価」のみならず「第三者評価(外部評価)」が義務づけられるようになったことも十分に留意しておかなければならないでしょう。

第四に、これも遅きに失した感はありますが、アカウンタビリティ「学生相談室」および「ハラスメント防止委員会」の設置を決定し、それぞれ石井(詩)通教部長・平子教授を責任者とする関係教職員の尽力によって、その規程および組織づくりが達成されることになりました。特に前者については、2年前から試みられているオフィスアワー制度とともに、その成果が期待されることになりました。さらに、広報活動に関連して法人と大学間のコミュニケーションを円滑にするための「広報連絡協議会」のほか、「学生の資格取得のための運営協議会」や「e-Learning 推進協議会」なども設置されて、すでに活動を開始していることを申し添えておきます。

最後に、校舎棟の増築(2,970m<sup>2</sup>)・体育館の床の改善・プレハブ部室の新設(14室)・旧校舎棟の外壁の塗り替えなど施設面の整備・充実があります。これらは松尾理事長・中居事務局長などの尽力によるところが大きいのですが、すでに小生に与えられた紙数も尽きるところなので、この件については別の機会に紹介させてもらうことにいたしましょう。ただ付言しておきたいのは「仏つくって魂入れず」ということのないようにしたいということです。



## 本についての本

図書館長 井野 智まさとし

本についての本がたくさん出版されている。

筆者が手にしたこの種の本のなかで、もっとも感銘した一冊に、皇后美智子様の著書『橋をかける』（すえもりブックス）がある。

この本は、1998年にインドで開催された国際児童図書評議会（IBBY）総会における美智子様のビデオによる基調講演を収録したもので、子供時代の読書経験をふり返り、ご自身、その後の考え方、感じ方の「芽」になったと思われる何冊かの本について語られたものである。

大会のテーマが「子供の本を通しての平和」であったことから、たとえば、疎開先で愛読された“小国民文庫”について、世界情勢の不安定だった時代に子供たちのために広く世界の文学を読ませたいと願った編集者がいたことなど、子供の読書にかかわる大人の責任と役割を問う教育論でもある。

この本で、美智子様が絵本『はじめてのやまのぼり』の著者で印税の一部をIBBYに寄付されていること、絵本『どうぶつたち』『ふしぎなポケット』の英訳をされていることなどを知った。

近頃、大人たちにも絵本は人気がある。

本学の元教授で“現代技術史”を担当され1994年に亡くなられた遠藤一夫先生は児童書や絵本の作家として有名である。筆者の手に『食べものの発明発見物語』『人の道・車の道』『雪国のくらし』『かげのはなし』がある。

絵をスクリーンに大映しにし、司馬遼太郎そっくりの風貌で語る先生のたのしい講義ならば、学生は静かに聴くだろうか。

平成13年11月発行の本誌第21号に「私の読書観 Vol.1」として拙文“学生時代につけよう読書の習慣”を載せていただいた。そこでは、読書習慣を身につけるきっかけは読みやすく面白い本との

出会いにあるとし、これまで筆者が読書遍歴の道しるべとしてきた読書案内書数冊を紹介した。

最近、丸谷才一編著『ロンドンで本を読む』（マガジンハウス）を見つけた。

長文が多いイギリスの書評名作選ともいえるべきこの本で取り上げているのは、古典から現代文学まで、いずれも邦訳のある本、あるいは日本語で書かれた本の英訳ばかり、世界的作品を展望した格好の日本人向け読書案内書である。

東大で外国文学を専攻した丸谷は、翻訳家、小説家、随筆家、評論家であり、芸術全般に精通した教養人である。文壇の重鎮として招かれる出版祝賀会、文学賞授賞式はもとより、知己・友人の年祝い、葬儀、結婚式など、出席すべき会合は多い。予め頼まれると、必ず原稿を用意し暗記して会にのぞむ丸谷の挨拶は、格調高く、だれもが傾聴するといわれている。

丸谷の数々の挨拶を収録した『挨拶はたいへんだ』（朝日新聞社）は、読み物としても「ひとつひとつが、たとえば川端康成の掌編（短編）小説を超える作品」（井上ひさし評）であり、挨拶のよき手本であるばかりでなく、読書の手引きとなる作家・読書論として、是非読んでほしい一冊である。

平成14年4月から図書室が図書館に昇格した。

本誌の編集担当者から初代図書館長としての抱負を語るよう要請された。

図書館は大学の顔、その名に恥じぬ蔵書および設備の充実とその活用に向けて、できることから手をつけたいと思う。

学生・教職員、大学・法人関係者各位の理解と支援をお願いする次第である。

# 私の読書観 Vol. 2



## 田中菊雄著『現代読書法』稀観記

情報メディア学部助教授 田城 徹 雄

井野智先生は「学生時代につけよう読書の習慣」という一文を、北海道情報大学の学内報『ななかまど』の巻頭言に寄せられました。この巻頭言は時宜を得た学生への『読書のすすめ』として、諸先生の間で話題になりました。

巻頭言の文中に引用された田中菊雄著『現代読書法』は、既に稀観本となって久しく、私達の目にしたことのない本ですが、久野光朗先生がこの本を愛読し所蔵しておられることを、ある会話の折にお話されました。願い出て、学生への『読書のすすめ』の一助として図書館に寄贈頂けないものかと伺いましたところ、快く受諾されて本書を持参され、処理方を私に委ねられました。

本書を手にして読みゆくほどに、頼山陽の『日本外史』を素読することに始まった田中菊雄先生の学究らしい誠実な読書遍歴を思い描くことができます。先生は、『題して「現代読書法」と言ひながら私は何一つ自分の方法を創案したのでもない。たゞ先覚の示された方法の二三を紹介したに過ぎない。私の書物が引用の餘りに多いことを咎めないで頂きたい。たゞそれだけが私の身上なのだから』と書いておられます。この言葉は先生の謙譲な人柄によるものですが、実は、ここに読書法の真髓があります。読書法とは、本の形で『人類の過去において蓄積した一切の富と寶とを繼承して、意のままにこれを受用する』方法であり、『前の時代人の到達した地點を出発點として文化の炬火の繼走をつづける』ため先覚がよりよい方法を意識化し書き残して文化の技術として繼承してきたものなのです。哲学が論理学によって構成され、否定と批判の歴史を持つように、文化の技術である読書法は肯定と繼承の歴史を持つべきものなのです。

本書には、また、田中菊雄先生が独学力行して英文学者となられた立志篇の一端を伺うことができます。

『辞を成せるは人なり』と謂うべく、先生が後進、初学のために浩瀚な読書法の真髓を本書に示された

ことに深い敬意を捧げ、学生諸君に一読を勧めます。併せて、久野光朗先生のご厚意に感謝申し上げるものです。(2002.2.11. 田城徹雄 記)

この本は図書館にありますので、ぜひ手に取って見てください。

### 私の読書観

読書は古典や文献を知的生産の手段として利用する文化の技術です。従って、読書に先立って、科学研究の課題などの実践的な問題意識が必要です。読書は認識の弁証法的な発展のために行うのですから、科学上の権威の否定や社会変革の意思などの強い動機づけが必要です。実用書の読書や、<見ぬ世の人を友とするぞ、こよのうなぐさむるわがなる>『徒然草』にみるような趣味としての読書は青年学生の読書とはいえないでしょう。

少し卑近ですが、諸君の実践的な問題として、就職試験があります。問われるのは基礎学力であり、面接におけるコミュニケーションの能力とそこに現れる人格です。常識・教養を持ち、筋道立てた対話ができる人物であるかどうかは、事前に提出した小論文に論理的な思考力がみられるかどうかで分かります。論理的な小論文は読書なしには書けません。

企業が学生に要求する水準が非常に高くなってきていると言われていますが、実は、失われた読書力が求められているに過ぎないのです。最近、家族の持つ擬制的な階級機能や文化資本力の差によって急速に進んだ社会の階層化を通じて、その人物の読書力のあるなしが現実の生産活動や社会生活の水準を決めてしまうことが分かってきたからです。

諸君が、田中菊雄先生に導かれて読書の森を訪ね、学生時代に生涯の座右の書に巡り会うことを願っています。そして、私の学生時代の一時期が唯それだけからなる、ヘーゲル『小論理学』と今井功『流体力学(前編)』などを導きの糸とした私の読書観を諸君が訪ねてくることを期待しています。

# 就職コーナー

## まだ内定を得ていない4年生へ 【学部4年生・大学院2年生対象】

まだ内定を得ていない4年生は、是非就職課に相談に来て下さい。内定獲得まで、最後まで諦めずに活動を続けていきましょう。

## すでに内定をもらった学生へ 【学部4年生・大学院2年生対象】

内定をもらったらまたは進路が決定したら、必ず就職課に連絡して下さい。報告用紙は就職課にあります。また、大学の公式ホームページにも送信用のフォームがあります。是非利用して下さい。未提出者は就職課の掲示板に氏名を貼りだしていますので一度確認して下さい。

## 求人情報閲覧システムのご案内 【全学生対象】

本学就職課では、皆さんの就職活動を支援するために、大学に届いた求人票と本学通信教育部教育センターに届いた求人票をインターネットで閲覧するためのシステムを運用しています。このシステムには就職課ホームページからはいることができます。

このシステムの運用によって、学内のマシンからであれば就職課の窓口営業時間を気にせずに企業情報を閲覧することができます。現在3年生向けの求人情報も大学に求人票が届き次第、閲覧可能なように作業しますので、是非利用して下さい。

## 就職指導スケジュール 【学部3年生・大学院1年生対象】

### 平成15年1月24日(金) 特別ガイダンス説明会

北海道の会社説明会の皮切りとなる全国私立大学就職指導研究会主催の特別就職ガイダンスが2月13日(木)に行われます。このための説明会を行いますので、民間就職希望の学生は必ず参加して下さい。

### 2月4～7日 個人面談

卒業後の進路について個別に学生と面談し、進路調査を行います。民間就職希望、公務員希望、進学希望、留学希望、自営業を継ぐ、その他に関わらず、全員と面談する必要があります。時間等についてはすでに掲示してありますので、必ず受けてください。

## 特別就職ガイダンスが行われます！ 【学部3年生・大学院1年生対象】

全国私立大学就職指導研究会主催の特別就職ガイダンスが次の通り行われます。このガイダンスに参加する企業は120社、道内21校の私立大学学生を中心に就職を希望する大学3年生が例年大勢参加します。道内の会社説明会の皮切りと位置づけられているガイダンスで、このガイダンスの参加如何でその後の就職活動に対する意気込みが違ってくると言われています。就職希望者は必ず参加して下さい。

開催日時：平成15年2月13日(木) 9:00～16:30(本学割り当ては午前中)

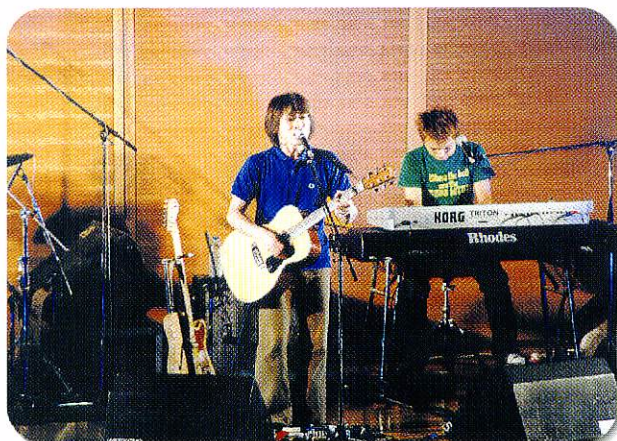
場 所：札幌月寒グリーンドーム

参加企業：120社

服 装：リクルートスーツ

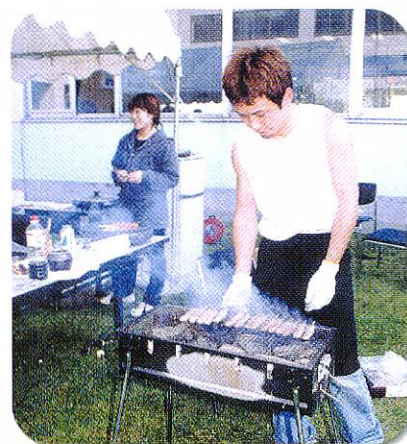
備 考：参加のための説明会を1月24日(金)に開催します。

# MEMORIAL PHOTO by 第14回 蒼天祭 DATE 2002.10/12~13



# MEMORIAL PHOTO by 第14回 蒼天祭

DATE  
2002.10/12~13



## ◆◇ 教職員の動向 ◇◇

## ☆ 大 学 ☆

## &lt; 主要行事 &gt;

- 11月8日(金) 経営情報学部教授会  
 15日(金) 情報メディア学部教授会  
 22日(金) 全学教授会  
 24日(日) 推薦入学試験・特別入学試験  
 12月6日(金) 経営情報学部教授会  
 13日(金) 情報メディア学部教授会  
 20日(金) 全学教授会  
 21日(土) 情報メディア学部3年次編入学試験(2次募集)  
 27日(金) 仕事納め

## ☆ 通信教育部 ☆

## &lt; 入学選考 &gt;

- 11月15日(金) 第2回入学者選考  
 12月20日(金) 第3回入学者選考

## &lt; 後期地方スクーリングⅡ &gt;

- 11月8日(金)～11月10日(日) 全国17カ所  
 11月15日(金)～11月17日(日) 名古屋  
 11月17日(日)～11月19日(火) 福岡

## &lt; 後期地方スクーリングⅢ &gt;

- 11月22日(金)～11月24日(日) 新潟、名古屋  
 11月28日(木)～11月30日(土) 新潟  
 11月29日(金)～12月1日(日) 全国14カ所  
 12月22日(日)～12月24日(火) 静岡

## &lt; 後期レポート提出期間 &gt;

- 11月5日(火)～11月11日(月)

## &lt; メディア授業科目試験期間 &gt;

- 12月16日(月)～12月20日(金)

## ☆ 大 学 院 ☆

- 4月4日(木) 入学式・新入生ガイダンス  
 8日(月) 前期授業開始  
 5月21日(火) 大学院説明会(札幌教育センター)  
 22日(水) 〃 (学内 経営学科)  
 23日(木) 〃 (学内 情報学科)  
 30日(木)～6月6日(木) 大学院推薦入試受付

- 6月15日(土) 大学院推薦入試  
 19日(水) 推薦入試合格発表  
 7月16日(火) 前期授業終了  
 9月2日(月)～12日(木) 後期授業開始  
 大学院一次募集受付

- 10日(火) 大学院説明会(学内)  
 21日(土) 大学院一次募集入学入試  
 25日(水) 一次募集合格発表

- 12月21日(土) 後期授業終了

## &lt; 集中講義 &gt;

- 簿記原理特論 4/24(水)、5/29(水)、6/19(水)、7/17(水)  
 9/4(水)、9/25(水)、10/30(水)、11/27(水)、12/18(水)  
 管理会計特論 8/20(火)～23(金)、8/26(月)～29(木)

## ◆◇ 広報活動 ◇◇

- 12月21日(土) 情報フェア2002  
 北海道情報専門学校と共催(於:札幌ガーデンパレス)

## &lt; 進学相談会 &gt;

- 11月～12月 道内12会場

## &lt; 校内ガイダンス &gt;

- 11月～12月 5校

## &lt; 通信教育部説明会 &gt;

- 11月16日(土) 東京  
 12月7日(土) 北九州  
 12月14日(土) 東京

## &lt; 高校訪問 &gt;

- 11月～12月 道内近地・遠地、岩手県

## &lt; TVCM &gt;

- 11月～12月 STV、HBC、UHB

## ◆◇ 主な来校者 ◇◇

- 11月5日(火) 風連高校教育振興協議会会長  
 風連町教育長等 4名  
 11月6日(水) 野幌高校2年生35名、教員2名(進学体験)  
 11月28日(木) 函館大学付属有斗高校教員1名  
 12月3日(火) 函館工業高校教員1名  
 12日(木) 東京農工大学職員2名  
 19日(木) 北京放送大学教員1名

## 編 集 後 記

新しい年が始まった、今年こそはと胸膨らむのが、正月そして1月である。去年で  
 きなかつたことに挑戦する。またはやってみよう。大人も子供もそれは同じである。「豊  
 臣秀吉」は夢を越えた男とも評さ  
 れる。誰もできなかった天下統一をやった。夢も希望  
 もないといわれる現在、せめて大学と呼ばれる「知の  
 殿堂」の中だけは、夢に挑戦する場でありたい。その  
 中から、第二、第三の「豊臣秀吉」が出現するのを期  
 待したい。こう考えることができるのも、年の始めの  
 成せるわざである。(S)

## 北海道情報大学学内報

「ななかまど」第25号

発行日 平成15年1月1日  
 発行 北海道情報大学  
 編集 学内報編集委員会